

○事業所名	児童発達支援センターつぼみ		
○保護者評価実施期間	2025年 6月 16日 ～ 2025年 7月 31日		
○保護者評価有効回答数	対象者数	16	回答者数 14
○従業者評価実施期間	2025年 6月 16日 ～ 2025年 7月 31日		
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの多角的なアセスメント お子さんの状態に合わせた発達支援	・担当者、児童発達支援管理責任者を含めた多職種でのケースカンファレンスや日常場面での意見交換 ・多職種が日常保育の中で関りお子さんに合わせた支援を提供 ・水泳設定や大型遊具など日常では経験しづらい取り組みをお子さんの状態に合わせて実施 ・看護師が常駐し、安全・健康を配慮した支援 ・お子さんの成長段階や特性を踏まえ、強みを探して支援 ・お子さんの発達や特性を捉え、それぞれに必要な支援の内容や環境に配慮する	・職員研修などでより知見を深めていく ・職員間でお子さんの情報共有をさらに密に行っていく ・一人ひとりに合わせた支援ができるように「健康・生活」「感覚・運動」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域にわたった成長を促す為の支援プログラムを策定し、これに基づく個別支援計画を保護者と共有して作成することでお子さんを尊重したサービスした提供を行う。
2	保護者との相談支援	・保護者通所日や登降園時、電話などを利用し、保護者との情報共有 ・必要に応じた家庭訪問支援	・使用できる社会資源などの情報をアップデートしていく
3	家族支援の充実	・勉強会の開催 ・きょうだい支援	・保護者のニーズを的確にとらえ、テーマについての検討を行う ・きょうだい同士が自分のきょうだいへの理解を深めたり、悩み等話せる場になるように機会を引き続き作っていく。
4	つぼみ・めぶきの交流	・年長活動 ・行事を一緒に実施	・両通所児の発達や特性を職員全体で把握することで、どの職員でもお子さんと関わる中で同じ配慮や介助ができるように引き続き個々のスキルを高める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者に対する情報発信ツールの狭さ	・利用保護者との連絡ツールがメールや紙になっているなど、デジタル活用が弱い。	・出欠席の連絡をメールではなく、アプリにすることで利用保護者の利便性を図る ・事業所評価や支援プログラムなどをHPで公表する
2	支援時間	・支援時間が9:15～13:30になっており、仕事やきょうだいの学校行事へ参加したい保護者にとっては、もっと長い預かりが必要。	・延長支援として希望者に15:15までの預かりを実施